

“今のあなたと未来のあなたを 子宮頸がんから守るために”

<子宮頸がんとは？>

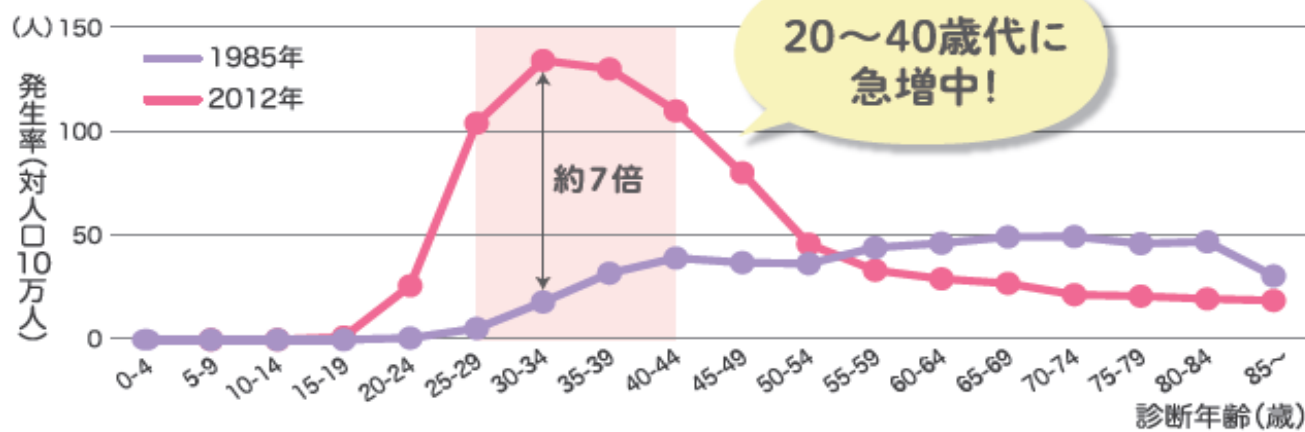
子宮頸がんの多くはHPV(ヒトパピローマウイルス)が原因です。

「性交渉の経験がある女性の約80%が生涯に一度は感染する」と言われているごくありふれたウイルスで感染しても殆どは2～3年で自然消失します。

しかしごく一部で感染が持続し、数年から数十年かけて「がん」に進行し、日本では年間1万人以上が発病、3000人近くの方が亡くなっています。

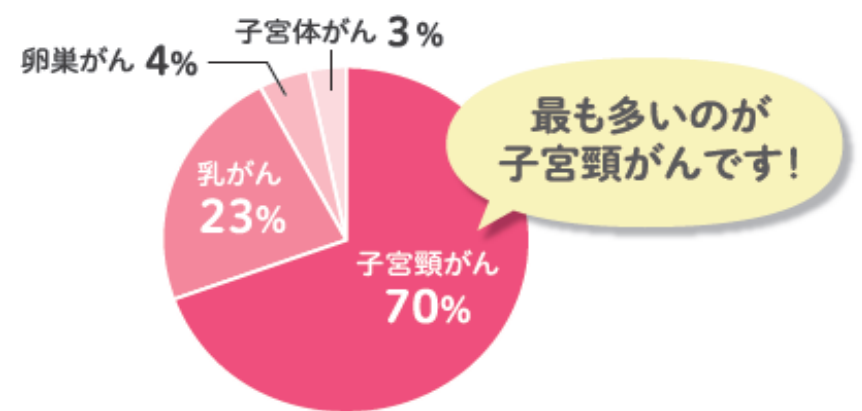
子宮頸がんは進行が遅く、早期には自覚症状がないため定期的な検査を受けることが重要です。

■ 日本における年代別子宮頸がん発生率



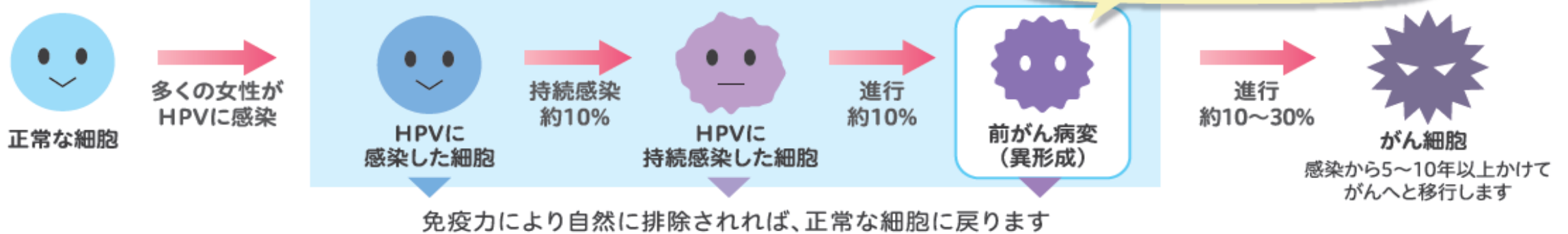
国立がん研究センターがん情報サービス「がん登録・統計」地域がん登録全国推計によるがん罹患データ(1975年～2012年)より

■ 女性特有のがん患者の比率(20・30歳代/2010年)



最も多いのが
子宮頸がんです!

■ 正常な細胞が子宮頸がんになるまで



<子宮頸がんの検査法>

- ①細胞診：採取した細胞を顕微鏡で観察する検査です
- ②HPV検査：採取した細胞内にHPV遺伝子が存在するか否かを専用機器で判定します

細胞診にHPV検査を追加することで子宮頸がんの発見率がさらに上がり、**がんになる手前の状態(前がん病変)を、ほぼ見逃すことなく発見することができます。**

2つの検査の併用で、見逃しを防ぐことができます。

● 細胞診

がん細胞や、がんになりそうな細胞(前がん病変)が存在しているかを調べる検査です。がんの発見には大変有効ですが、細胞診だけでは、前がん状態の20～30%の見落としがあるといわれています¹⁻²⁾。



● HPV検査

ウイルス(HPV)への感染を調べる検査です。子宮頸がんの原因となるハイリスク型HPV14タイプのいずれかに感染しているかどうか、陽性(+)/陰性(-)で判定します。



子宮頸がん検診では、細胞診と一緒に
「HPV（未来を診る）検査」を受けましょう！



当施設では、一度の検体採取で、細胞診とHPV検査の両方を受けられます。

● 検査方法



検査用のプラシなどで採取した細胞を、専用の保存液に保存する「液状化検体細胞診(LBC)」という方法で行います。この保存された検体から、細胞診とHPV検査の両方を行うことができます。

HPV検査では、将来、子宮頸がんへ進展するリスクも知ることができます。

細胞診で異常がなく、HPV検査でHPVの感染が認められない場合、3年後に前がん状態である中等度異形成の病変が検出される可能性は非常に低くなります³⁾。また、HPV検査で感染が認められても、きちんと経過観察を続けることで、がんになる前に発見・治療が可能です。

今のあなたと
未来のあなたを、
子宮頸がんから
守るために。

子宮頸がんの原因であるHPVは、
性交渉の経験がある女性の約80%が
一度は感染するといわれています。



子宮頸がん検診では、従来の検査と一緒に「HPV検査」を受けましょう。